

戦後改革期に教科書会社から刊行された教育雑誌(6)

—実業教科書株式会社の『工業教育資料』・『商工教育資料』誌—

丸 山 剛 史
尾 高 進

Journal Published by Textbook Publisher under Educational Reform after World War II (6)

MARUYAMA Tsuyoshi, ODAKA Susumu

本報は、前報に続き、戦後改革期に実業教科書株式会社から刊行された教育雑誌に関して検討しようとするものである¹。本報では、『工業教育資料』誌及び『商工教育資料』誌を取りあげた。

『工業教育資料』誌は、1946年10月20日に創刊号が発行され、1948年9月1日に発行された第2巻第9号まで、約2年間に20冊（別冊附録除く）が発行された。この間、1948年4月には中学校職業科に関する独立誌『職業科 —新しい中学—』誌が刊行され、中学校職業科関係の記事は『職業科』誌で扱われるようになった。1948年10月に『商業教育資料』誌と「合併」され、誌名は「商工教育資料」と改題された。『商工教育資料』誌は、1949年6月までに8冊が発行された。1949年7月には、『商工教育資料』誌は、「高校教育」と「改題」された。同年5月には、読者に対して『高校教育』誌への「改題」が予告されていた。その予告の文章には、「改題」の理由が次のように述べられている²。

「本誌の改題／国家予算の上から6.3.3制の可否が、現在種々議論されているとはいえ、このような教育制度の問題とは一応切り離して新教育の理念は非常な勢いで浸透され、これに

¹ 尾高進・丸山剛史「戦後改革期に教科書会社から刊行された教育雑誌(5) —実業教科書株式会社の『農業教育資料』・『水産教育資料』誌—補遺—」『工学院大学共通課程研究論叢』第46巻第2号、2009年、105-109ページ。実業教育関係に関しては、第3報において『商業教育資料』誌を、第4・5報において『農業教育資料』誌及び『水産教育資料』誌をとりあげた。

² 「編集後記」『商工教育資料』5月号、1949年5月、35ページ。

基づいて具体的実践段階に達しているようである。／即ち、高等学校においては、総合高等学校への統合の問題や、カリキュラムの構成・運営、あるいはガイダンスの研究などが焦点となっている。／新学校制度における新制高等学校の地位ならびに役割は果たして如何なるものであろうか。新教育への切換にあたって新制中学校の設備、および新制大学の資格問題などに較べて新制高等学校の問題は、従来の中等学校の設備その他を高度に活用できる点などから、一部の問題を除き制度上の困難さは認められなかったようである。／しかし前にあげたようなカリキュラムやガイダンスの問題は依然として続いている。／本誌は新たに7月号より『高校教育』として発足し、如上の問題を如何に解決してゆくかまた高等学校における技術教育と一般教養を如何に学習せしめ、指導してゆくかという問題をとりあげ、従来の本誌の性格であった技術教育本位の殻をぬぎ捨て、一般教育（教育学的意味も含めて）との密接なる連携をもって、よき教育者として欠くことのできない両要素のニュアンスを企図している。」

すなわち、『高校教育』誌は、高等学校における「総合高等学校への統合の問題」、「カリキュラムの構成・運営」、「ガイダンスの研究」等の問題を「解決」していくために、『商工教育資料』誌の「性格」であった「技術教育本位の殻」を「ぬぎ捨て」「発足」させることになったものとされる。

確かに、高等学校は、1948年4月に旧制中等学校の色彩を濃く残したまま出発し、1948年秋から翌49年秋にかけて、各都道府県単位での大規模な統廃合にみまわれていた。そして、その際、複数の課程を併置した、いわゆる総合制の高等学校が大幅に増加するなどしていた³。

ところで「改題」は、上記の高等学校教育に関する変化に対応するためだけであったのだろうか。なぜなら、『商工教育資料』誌は「改題」したけれども、同時期に発行されていた『農業教育資料』誌は、継続的に編集・発行されていたからである（1950年6月まで発行された）。

また、当時、実業教科書株式会社は、「高等学校の統廃合や展示会方式による新採択法などに伴う混乱から、教科書需要数の捕捉も困難を極め、23年（1948年：引用者）秋ごろから大量の教科書返本に悩まされ始めた」という。その他、教科書検定制度が実施されるようになったところ、「高等学校職業科目については検定未受理が多く、当社は発行部数で60%を失うことになった」ともいわれている⁴。こうした実業教科書株式会社を取り巻く状況も「改題」に関係していたのではないだろうか。

いずれにしても、工業教育、商業教育の専門誌であった『商工教育資料』誌は刊行されなくなった。後掲の目次集（資料1）には、『工業教育資料』誌及び『商工教育資料』誌28号

³ 佐々木享編『日本の教育課題 8 普通教育と職業教育』東京法令、1995年、259ページ。佐々木は、1949年9月1日現在の調査結果にもとづいて、公立高等学校が2307校から1805校へと502校減少していること、いわゆる総合制の高等学校は355校から785校へとほぼ倍増していることを指摘している。

⁴ 創立50周年記念誌編修委員会編『実教出版50年の足跡』実教出版、1992年、20ページ。

分の目次が収録されている。

(まるやま つよし 本学非常勤講師)

(おだか すすむ 本学准教授)

資料1. 『工業教育科』・『商工教育資料』誌 (1946-1949) 目次集

・本目次集を作成するにあたっては、編者が所蔵機関に向き現物を確認した。その所蔵機関を巻号・刊行年月右横のカッコ内に示した。執筆者名右横のカッコ内の数字はページ数を表す。

第1号：1946年10月25日 (国立国会図書館)

発刊のことば	上原種美 (2)
これからの実業教育	日高第四郎 (3)
工業教育の今後のあり方	西川孝次郎 (9)
教科書の扱ひについて	大島文義 (8)
話込主義と教科書	本間仁 (10)
「電気応用1」について	山内二郎 (10)
[投稿]	
機械科における総合実習	川畑一 (12)
学会の動き	(15)

第2号：1946年11月30日 (国立国会図書館)

実業教科書の基本的性格と実業科担当教官への希望
林次 (2)

[特集] 実業教科書について

機械設計	馬場秋次郎 (5)
実習化学分析	武藤義一 (6)
繊維及製品	成田時治 (8)
採鉱大意 (1)	佐野秀之助 (9)
工業教育の新方向	関英男 (11)
「自由研究」への構想	村田愛祐 (14)
進駐軍用の住宅	平山高 (15)
学界便り	

第3号：1947年3月15日 (国立国会図書館)

実業学校の新教科課程について

	佐藤静一 (2)
「電磁現象」の教え方	山本勇 (5)
「化学」(1)の教授法	林太郎 (7)
「水工」(1)の執筆者から	本間仁 (9)
戦災学校の教授実例	山賀辰治 (14)
[投稿]	
自由時間の扱い方について	中江清 (17)
近時における下水処理と汚水処理の趨勢について	丹羽健蔵 (18)
教科書のあり方 (1)	山田八郎 (22)

第4号：1947年5月20日 (国立国会図書館)

職業教育の方向	L.Q.モース (2)
高等学校教科課程 (8)	
実業教科書研究員決定 (16)	
「建築構造」(1)について	岸田林太郎 (18)
メリヤスの将来	成田時治 (21)
工業教育における自由研究についての私見	河島武四郎 (23)
[投稿]	
実業学校教育論序説 (その1)	渡辺恒 (26)
※別冊附録「新制高等学校教科課程」	

第5号：1947年6月30日 (国立国会図書館)

新制高等学校電気科の学習指導要領について

	山本勇 (2)
国際十進分類法 (025・45)	津村利光 (5)
「教科書の取扱い方」	
電気機械	山下英雄 (8)
化学機械	中島敏 (9)
測量	星義雄 (11)
水工 (2)	本間仁 (15)
機械科における実習実験指導法	小玉政雄 (19)
[投稿]	

工業部門における数学的教育 乙堀次郎 (22)

下水処理と汚泥処理の趨勢について (その2)

	丹羽健蔵 (24)
実業学校教育論序説 (その2)	渡辺恒 (27)
※第5号別冊附録：新制高等学校工業関係学習指導単元(案)第1集/共通教科/機械科/電気科/電気通信科/工業化学科/土木科/建築科	

第6号：1947年7月15日 (国立国会図書館)

アメリカの実業教育 (1)	大谷敏治 (2)
実業教科書供給予定	(10)
実習教員強化拡充策の一方法	河島武四郎 (11)

〔教科書の取り扱い〕

無線通信	谷村功 (13)
構造設計	成瀬勝武 (14)
今後の工場経営	都崎雅之助 (17)
〔投稿〕	
近時における下水処理と汚泥処理の趨勢について	
(その3)	丹羽健蔵 (19)
スケッチについて	岩儀菊男 (22)

第7号：1947年8月15日（国立国会図書館）

中学校における職業指導の目的	
	ルイス・Q・モス (2)
規格統一事業の使命と動向について	

	横山不学 (7)
発明と特許制度	神保弁吉 (15)
これからの実業教育に対する一私見	池原止戈夫 (20)
実業学校夜間部生徒指導の一方法	山田恭 (22)
土木試験所における最近の研究	山田順治 (25)
〔投稿〕	
近時における下水処理と汚泥処理の趨勢について(完)	
	丹羽健蔵 (28)
質疑応答	(31)

第8号：1947年8月1日（ママ）（国立国会図書館）

国産ミシンの精度と工業教育	仙波正荘 (2)
アメリカの実業教育(完)	大谷敏治 (8)
農村電化と工業教育(1)	弘山尚直 (12)
機械試験所の使命と現状	大越諄 (16)
用語調査会と電気用語改訂の現況	小原周三 (18)
〔投稿〕	
機械科実習工場の実例と実習教育	古田薫 (21)

第9号：1947年9月1日（国立国会図書館）

技術者の教育	水田準一 (2)
農村電化と工業教育(2)	弘山尚直 (7)
鉄道教習所の教育と技術教育への考察	川原道正 (11)
照明の現在と将来の問題	関屋広 (14)
機械科における実習と関係教科	佐藤孝次 (18)
建築施工の討議学習とその功過	中江齊 (20)
技術者のフロンティア	中島敏 (24)
化学機械教育への批判	佐藤敬夫 (26)
〔教科書の取り扱い〕	
木材工作	寺尾穰二 (29)
〔投稿〕	
日本標準規格と製図教育	稲垣益夫 (31)
質疑応答	

第10号：1947年10月1日（国立国会図書館）

新制中学校における職業科について	(1)	島田喜知治 (2)
新しい機械実習のあり方を語る	座談会 (7)	
配電線路の現状と将来	倉重正武 (18)	
木材工芸教育の方向について		野村茂治 (29)
金属工芸品の輸出と教育	杉浦基史郎 (31)	
〔教科書の取扱〕木工材料	中村源一 (32)	
研究の徹底と実用化	青木楠男 (34)	
質疑応答	(35)	
工業学校設置学科数	(33)	

第11号：1947年11月1日（国立国会図書館）

貿易再開と日本産業	(2)	
機械科学習指導要領(試案)	(3)	
本校における自由研究の実態		大阪市立都島工業学校 (15)
建築の今後のあり方	藤島玄治郎 (21)	
高周波の特殊応用	正木知己 (24)	
亜炭の利用	野口清 (31)	
〔研究〕		
機械科の連続的教育私見	中川原民男 (33)	
質疑応答	(35)	

第2巻第1号（国立国会図書館）

教育資料の使命	(2)	
新制中学校における職業科について	(2)	島田喜知治 (3)
学習指導要領をつくるには	編修部 (8)	
貿易再開と紡績工業	成田時治 (11)	
座談会—工業教育について	(17)	
発電電所の見学とその指導	住谷哲 (25)	
新制中学職業科の工業教室の試案	大串不二雄 (30)	
トピック		
1950年型自動車の予想・新式コールプレーナ・アルマイト・国鉄レールの毀損統計・微量ガスの測定・米国の新人造絹糸4種	(32)	
—質疑応答—		

第2巻第2号：1948年2月1日（国立国会図書館）

新制中学職業科の取扱	林部一二 (3)	
工業化学科の実習指導(1)	大井潔 (9)	
発電電所の見学とその指導(2)	住谷哲 (6)	
工業教育における応用数学について		酒井勲 (21)
実習と製図の時間割編成	川原実 (24)	
—座談会—工業教育について	(26)	
実習の指導法	編修部 (32)	

- 第1巻総目次 (34) 実業教科書研究結果発表 (19)
 ※別冊附録「高等学校設置基準」 教授資料—工業化学 (1) について 武藤義一 (16)
- 第2巻第3号：1948年3月1日 (国立国会図書館)
 新制中学校職業科の意義 長谷川淳 (3)
 新制中学校職業科の取扱い (2)
 林部一二 (5)
 新制工業高校の教育の方向 青山正義 (9)
 土木科学習指導の工夫 大倉一平 (11)
 工業化学科の実習指導 (2) 大井潔 (14)
 学校製図について 原四郎 (18)
 「機械工作」と自由研究 岩儀菊男 (19)
 化粧木画 石井隆良 (23)
 耐火材料 黒田泰造 (25)
 学校図書館の設置 愛澤豊勝 (26)
 教科書「電磁事象」の研究 村上泰朗 (32)
- 第2巻第4号：1948年4月1日 (国立国会図書館)
 新制高等学校の発足に際して 太田周夫 (3)
 本校の実習について
 名古屋市立機械工業学校 (5)
 実習用資材の入手をどうするか
 宮川孝夫 (12)
 郷土産業の実態 古田薫 (16)
 電気学会の動向 電気学会 (18)
- 第2巻第5号：1948年5月1日 (国立国会図書館)
 新制工業高等学校の設置基準 石川好郎 (3)
 同窓会工場の運営について 深瀬喜蔵 (7)
 数学・物理・化学の取り扱い
 西川孝次郎 (11)
 教授資料—電気製図について
 山賀辰治/村田愛祐 (15)
- 第2巻第6号：1948年6月1日 (国立国会図書館)
 技術教育のあり方 富久力松 (3)
 実習指導と健康管理 荷見秋次郎 (7)
 本校における実習指導 山口県立下関工業高校 (12)
 日本機械学会の動向 山内弘 (15)
 学習指導と成績測定 升本政夫 (17)
- 第2巻第7号：1948年7月1日
 産業の合理化 都崎雅之助 (2)
 新しい学校と教育者 上野芳太郎 (3)
 電気科の教科経営 山岡俊郎 (6)
 専門用語のむずかしさ 白石大二 (8)
 新しい伝導変速装置について
 斎藤福蔵 (12)
- 第2巻第8号：1948年8月1日 (国立国会図書館)
 思いつくまま 野田長左エ門 (2)
 化学工業の現状と将来 小栗捨蔵 (3)
 機械実習の運営 北垣豊治 (8)
 本校における実習形態 稲葉達雄 (12)
 本校美術部について 石井隆良 (14)
 工場の実態調査 服部延春 (15)
 構造設計について 岸本進 (18)
- 第2巻第9号：1948年9月1日 (国立国会図書館)
 工業教育随想 山本栄吉 (2)
 工業高校教科課程の動向 石川好郎 (3)
 機械工業の現状と将来 野口高一 (5)
 「力と材料の強さ」の学習指導 古田薫 (11)
 工業化学科における製図 藤本二幸 (14)
 日本工業の工芸化 鈴木豊次郎 (17)
- 第2巻第10号より『商工教育資料』と改題
 第2巻第10号：1948年10月1日 (国立国会図書館)
 教科課程の発展 荒木直 (3)
 独占禁止法施行一周年 (1) 坂根哲夫 (6)
 木材工業の特異性と現状 中村源一 (10)
 総合高校の教科課程と運用 辻野完治 (12)
 商業実践の学習指導 (1) 杉田正人 (15)
 企業計理と珠算 伊藤一郎 (20)
 形体の図示法指導 川畑一 (22)
 技術以前のもの 山室静 (25)
 民族混合による英語発達史 (2) 佐久間正 (29)
- 第2巻第11号：1948年11月1日 (国立国会図書館)
 新制高校の改正教科課程 大照完 (3)
 明治維新の経済転換過程 今中次磨 (6)
 アメリカにおける事務機械化 原木一男 (9)
 私的独占禁止法施行一周年 (2) 坂根哲夫 (12)
 古典力学の反省 黒田義輝 (16)
 新制工業高等学校卒業生に望む 菅谷重平 (21)
 商業実践の学習指導 (その2) 杉田正人 (24)
 簿記導入法 内藤四郎 (28)
 電力系統の構成と指導 住谷哲 (32)
 実業教科書研究員決定 (35)
- 第2巻第12号：1948年12月1日 (国立国会図書館)
 商業課程の指導について 角田一郎 (3)
 高等学校職業教科表 (案) (6)
 教育財政について 内藤誉三郎 (8)
 新制商業高等学校卒業生に望む 尾形繁之 (13)

電気工事の実習	村田愛祐 (15)	第4号 (ママ) : 1949年4月1日 (国立国会図書館)	
簿記会計科の在り方	小田光治 (18)	高等学校の工業に関する教科課程について	
中小機械工業の実態	小林徳男 (20)		石川好郎 (3)
生活水準と生産力	早川登 (24)	職業課程の大教科制への移行	北垣豊治 (10)
電気事業の現状と将来 (1)	前田礼司 (27)	簿記会計指導体系の一研究 (1)	藤倉賢吉 (14)
商工教育資料第2巻総目次	(33)	機械工作と実習との関連性 都立北豊島工業高校	(21)
		商業の本質と金融篇指導の重点	横川義雄 (26)
第3巻第1号 : 1949年1月1日 (国立国会図書館)		単一為替レート設定と日本経済	編集部 (29)
総合高校と実業教育の振興	太田周夫 (3)	新しい生徒会の組織成る	(32)
近代中等実業教育の構想 (1)	大照完 (5)		
研究の心構え	田中重芳 (10)	5月号 (ママ) : 1949年5月1日 (国立国会図書館)	
商業高校の統合問題	角田一郎 (12)	アメリカ商業教育の動向	角田一郎 (3)
昨年中の簿記会計上の諸問題回顧	沼田嘉穂 (15)	「キリスト教」と営利精神	高橋芳蔵 (7)
締結用機械要素の興味ある取扱い方	中川原民男 (18)	不良化防止と特別教育活動	茂木義男 (10)
商業高校の珠算教育	山下恵三 (22)	簿記会計指導体系の一研究 (2)	藤倉賢吉 (13)
貸借対照表補注について	上野壽一 (26)	「メタリコン」について	古田薫 (19)
電気事業の現状と将来 (2)	前田礼司 (31)	総合高校における商業教育	桐田鉄郎 (22)
		学校植林運動について	長崎憲之 (25)
第2・3号 (ママ) : 1949年3月1日 (国立国会図書館)		わが国の国際観光事業	大河原修 (30)
近代中等実業教育の構想 (2)	大照完 (3)		
職業教育の新しい試み	長谷川淳 (8)	6月号 (ママ) : 1949年6月1日 (国立国会図書館)	
新制商品科の性格	繁田利男 (13)	ユネスコの最近のうごき	原現吉 (3)
パール・ミーゼの「会社体制」	大池長人 (17)	企業内部における職業教育	大池長人 (10)
本校の教科課程表	京橋化学高校 (21)	事業資金の流動を中心とする簿記新理論の提唱	
ミネソタ大学の物理化学教育	馬場重徳 / 寺田花之 (25)		安宅文雄 (14)
国民の統計	天城誠司 (32)	新制工高卒業生に望むもの	杉浦五 (24)
		地域社会における産業調査について	賀島一雄 (33)

資料2. 『工業教育資料』・『商工教育資料』誌 (1946-1949) 執筆者一覧

- ・氏名及び団体名は、五十音順に並べた。
- ・氏名の読み方は、可能な限り調べるように努めたけれども、確認し得なかったものもある。
- ・所属あるいは役職 (肩書き) は、雑誌に記載されたものを使用した。その際、旧字体は新字体に改めた。
- ・利用の便宜のために、執筆誌の巻号を付した。例：第3号→ (3)、第2巻第1号→2 (1)

あ

愛澤豊勝 (大橋図書館司書) ……………	2 (3)	稲垣益夫 (元都立機械工専講師) ……………	(9)
青木楠男 (早大教授) ……………	(10)	稲葉達雄 (大阪府立堺工業高校教官) ……………	2 (8)
青山正義 (京都市立美術工芸学校教官) ……………	2 (3)	今中次麿 (九州大学教授) ……………	2 (11)
天城誠司 (新潟県統計課長) ……………	3 (2・3)	岩儀菊男 (県立川口工業教官) ……………	(6), 2 (3)
荒木直 (文部省視学官) ……………	2 (10)	上野壽一 (高田商業高校教官) ……………	3 (1)
安宅文雄 (北海道立小樽商業高等学校教官) ……	3 (6)	上野芳太郎 (文部事務官) ……………	2 (7)
池原止戈夫 (東京工大教授) ……………	(7)	上原種美 (実業教科書編纂局長) ……………	(1)
石井隆良 (岐阜県第一工業学校教官) ……	2 (3), 2 (8)	大井潔 (都立京橋化学工業教官) ……………	2 (2), 2 (3)
石川好郎 (文部省高等教育課事務官 - 文部事務官)		大池長人 (愛知第一師範学校教官) ……	3 (2・3), 3 (6)
……………	2 (5), 2 (9), 3 (4)	大河原修 (観光協会) ……………	3 (5)
伊藤一郎 (都立第三商業高校教官) ……………	2 (10)	大串不二雄 (文部事務官) ……………	2 (1)
		大倉一平 (名古屋市立工芸学校教官) ……………	2 (3)

大越諄 (商工省機械試験所長) ……………	(8)
大島文義 (文部省図書監修官) ……………	(1)
太田周夫 (文部省高等教育課長) ……………	2 (4), 3 (1)
大谷敏治 (東京外事専門教授) ……………	(6), (8)
大照完 (文部省高等教育課) ……………	2 (11), 3 (1), 3 (2・3)
尾形繁之 (大阪・大建産業株式会社調査部長)	2 (12)
小栗捨蔵 (早稲田大学教授) ……………	2 (8)
小田光治 (芝商業高校教官) ……………	2 (12)
乙堀次郎 (堀乙次郎、広島工業専門学校講師) …	(5)
小原周三 (商工省電力局技官) ……………	(8)
か	
賀島一雄 (宇都宮商業高校教官) ……………	3 (6)
荷見秋次郎 (文部事務官) ……………	2 (6)
河島武四郎 (都立重機工業学校校長) ……………	(4), (6)
川畑一 (東京都立北豊島工業学校教官) …	(1), 2 (10)
川原道正 (運輸省港湾局長) ……………	(9)
川原実 (京都府立綾部工業学校教官) ……………	2 (2)
北垣豊治 (堺市立工業高校教官) ……………	2 (8), 3 (4)
岸田林太郎 (県立神奈川工業学校教官) ……………	(4)
岸本進 (兵庫県立龍野工業高校教官) ……………	2 (8)
桐田鉄郎 (京都市立洛陽高校教官) ……………	3 (5)
倉重正武 (関東配電株式会社技師) ……………	(10)
黒田泰造 (元九州大学教授) ……………	2 (3)
黒田義輝 (横浜工専助教授) ……………	2 (11)
小玉政雄 (東京帝国大学助手) ……………	(5)
小林徳男 (商工省) ……………	2 (12)
さ	
斎藤福蔵 ……………	2 (7)
酒井勲 (電機第二工業学校教官) ……………	2 (2)
坂根哲夫 (総理庁事務官・公正取引委員会取引課長) ……………	2 (10), 2 (11)
佐久間正 (元市立横浜経専講師) ……………	2 (10)
佐藤孝次 (都立北豊島工業学校校長) ……………	(9)
佐藤静一 (文部省視学官) ……………	(3)
佐藤敬夫 (東大第二工学部講師) ……………	(9)
佐野秀之助 (東京帝大教授) ……………	(2)
繁田俊男 (赤坂女子商業高校校長) ……………	3 (2・3)
鳥田喜知治 ……………	(10), 2 (1)
白石大二 (文部事務官) ……………	2 (7)
神保辨吉 (特許標準局技官) ……………	(7)
菅谷重平 (大阪・扶桑金属工業株式会社取締役支配人) ……………	2 (11)
杉浦五 (大同工業高等学校教官) ……………	3 (6)
杉浦基史郎 (都立工芸教官) ……………	(10)
杉田正人 (県立横浜商業高校校長) …	2 (10), 2 (11)
鈴木豊次郎 (東京工専講師) ……………	2 (9)

住谷哲 (北海道庁立小樽工業学校教官) ……………	2 (1), 2 (2), 2 (11)
関英男 (国際無線研究所) ……………	(2), (9)
関屋廣 (マツダ電気相談所所長) ……………	(9)
仙波正荘 (商工省機械試験所技官) ……………	(8)

た

高橋芳蔵 (東北学院専門学校教授) ……………	3 (5)
田中重芳 (神戸工専校長) ……………	3 (1)
谷村功 (逓信省技官) ……………	(6)
都崎雅之助 (東京帝大講師 - 多賀工専校長) ……………	(6), 2 (7)
角田一郎 (文部事務官) ……………	2 (12), 3 (1), 3 (5)
津村利光 (東京工業大学教授) ……………	(5)
辻野完治 ……………	2 (10)
寺尾穰二 (東京工業専門学校教授) ……………	(9)
寺田花之 (文部事務官) ……………	3 (2・3)
富久力松 (東洋ゴム工業株式会社社長) ……………	2 (6)
朝永良夫 (商工省機械試験所技官)	

な

内藤四郎 (広島商業高校教官) ……………	2 (11)
内藤誉三郎 (文部省学校教育局庶務課長) ……	2 (12)
中江齊 (県立静岡工業学校教官) ……………	(3), (9)
長崎憲之 (文部事務官) ……………	3 (5)
中川原民男 (新居浜工業学校教官) ……………	(11), 3 (1)
中島敏 (水産科学研究所員 - 水産化学研究所技官) ……………	(5), (9)
中村源一 (東京工専講師 - 東京工専教授) (10), 2 (10)	
成田時治 (繊維試験所第一部長 - 商工省繊維工業試験 所第一部長) ……………	(2), (4), 2 (1)
成瀬勝武 (日本大学工学部教授) ……………	(6)
西川孝次郎 (文部省視学官) ……………	(1), 2 (5)
丹羽健蔵 (大阪市立都島工業学校教官) ……………	(3), (5), (7)
沼田嘉穂 (横浜経専教授) ……………	3 (1)
野口尚一 (東大教授) ……………	2 (9)
野口清 (商工省燃料研究所技官) ……………	(11)
野田長左工門 (長崎工業高校教官) ……………	2 (8)
野村茂治 (東京工専教授) ……………	(10)

は

長谷川淳 (文部事務官) ……………	2 (3), 3 (2・3)
服部延春 (名古屋市立八剣工業高等学校長) …	2 (8)
馬場重徳 (文部事務官) ……………	3 (2・3)
馬場秋次郎 (東京工業専門学校教授) ……………	(2)
早川登 (県立愛知商業高校教官) ……………	2 (12)
林太郎 (東京女高師教授) ……………	(3)
林傳次 (文部省教科書局第二編修課長) ……………	(2)

- 林部一二 (文部事務官) …… 2 (2), 2 (3)
 原現吉 (文部省事務官) …… 3 (6)
 原四郎 (福島県喜多方商工学校教官) …… 2 (3)
 原木一男 (ナショナル金銭登録機会社常務理事)
 …… 2 (11)
 日高第四郎 (文部省学校教育局長) …… (1)
 弘山尚直 (東京商工局電力部長) …… (8), (9)
 平山高 (東京帝大教授) …… (2)
 深瀬喜蔵 (岩手県立黒沢尻工業高校教官) …… 2 (5)
 藤倉賢吉 (米澤第三高校教官) …… 3 (4), 3 (5)
 藤島亥治郎 (東京大学教授) …… (11)
 藤本二幸 (京橋化学工業高校教官) …… 2 (9)
 古田薫 (岐阜県関工業学校教官)
 …… (8), 2 (4), 2 (9), 3 (5)
 星義雄 (県立甲府工業学校長) …… (5)
 本間仁 (東京帝国大学教授) …… (1), (3)
- ま**
 前田礼司 (関配) …… 2 (12), 3 (1)
 正木知己 …… (11)
 升本政夫 (広島県立広島工業高校教官) …… 2 (6)
 水田準一 (東大教授) …… (9)
 宮川孝夫 (文部省教育施設局資材第2課長) …… 2 (4)
 武藤義一 (東京帝大第二工学部助教授 - 東京大学助教授)
 …… (2), 2 (7)
 村田愛祐 (県立神奈川工業高校教官 - 神奈川県立工業
 学校教諭) …… (2), 2 (5), 2 (12)
 村上泰朗 (愛媛県立新居浜工業学校教官) …… 2 (3)
 茂木義男 (都立第一商業高校教官) …… 3 (5)
- や**
 山岡俊邦 (大分第二高等学校工業部教官) …… 2 (7)
 山賀辰治 (神奈川県立工業学校長) …… (3), 2 (5)
 山下恵三 (神戸市立第一女子商業高校教官) …… 3 (1)
 山下英男 (東京帝国大学教授) …… (5)
 山田恭 (都立農産工業学校教官) …… (7)
 山田順治 (内務省土木試験所技官) …… (7)
 山田八郎 (東京都立工芸学校教官) …… (3)
 山内二郎 (東京帝国大学教授) …… (1)
 山内弘 (早大教授) …… 2 (6)
 山室静 (近代文学同人・小諸高校校長) …… 2 (10)
 山本勇 (東京工業大学教授) …… (3), (5)
 山本栄吉 (大阪市立都島工業高校校長) …… 2 (9)
 横川義雄 (北海道立函館商業高等学校教官) …… 3 (4)
 横山不学 (特許標準局技官) …… (7)
- わ**
 渡邊恒 (新潟県立工業学校教官 - 新潟県立学校教官)
 …… (4), (5)
- ら**
 ルイス・Q・モス …… (4), (7)